

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	スローシティ ピアノ	ユニット名	ソナタ
所在地	宮崎県延岡市平原町1丁目854-1		
自己評価作成日	令和6年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和7年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を持つ高齢者が、安全に毎日を過ごす事が出来る為に、施設内の不要物を撤去し、限られた空間を出来るだけ広く安全に使用できる様に努めている。加えて、必要に応じ(その方の認知症の程度に応じ)各個人の居室のレイアウト変更や、ご家族様に相談し不要物の持ち帰り等もやっている。しかし、安心して生活される為に「馴染み」のある生活は必要なので、そこをユニット職員、利用者様、ご家族様を含め、話し合いながら進めている。当施設は、医療連携をしている事から、24時間体制で協力医に連絡でき、利用者の体調に応じた必要な対応が出来ている。今まで感染症対策はしていたつもりだったが、事業所内でコロナ集団感染が発生した。この貴重な経験から、私達の行うべき必要な感染防止対策を確実に実行し、決して油断をしないようにしていきたい。利用者様の精神面の安定に関しても、常日頃からの施設内での活動に加え、外出レクや地域との関わりの継続も行い楽しく穏やかに生活できるように今後も支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、南延岡駅より徒歩で10分の街中にあり、近くに保育所、薬局、小学校と交通の便利が良い、環境の整った場所にある。ホーム内は天井が高く窓が多くて明るいことや居室や空間が広くてゆったりとしている。季節に応じて温度や湿度に留意し調整を行っている。それぞれの職員で掲げた理念を意識しケアを提供している。入居者の多くが笑顔で生き生きと過ごされている。また帰宅支援や外出支援を入居者の家族の協力を受けながら実施している。ホームでの生活は、家族や近隣の理解と温かい職員の支援が得られることで、安定していると考えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念に基づき、事業所の理念があり、利用者が「ゆっくり」ご自身の力を発揮できるように日々支援している。また、個人の尊厳と自由が守られる様、環境面、接遇面でも気を付けている。個人理念を持ち掲示する事でそれを共有し切磋琢磨が出来る環境を作っている。	職員一人ひとりが個人の理念を立てることで、より身近で実践に繋げるものとなっている。タイムカードの横に目につくようにしている。また半年に1回それぞれが見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店や専門店を活用し、食材や物品、必要物の購入をしている。感染症予防の為交流等が難しくなっている面もあるが、可能な時期はボランティア等を招き、交流の場を作っていきたい。保育園園児の訪問は可能な時期数名の交流を行っている。	以前は踊りのボランティアの出入りがあったが、感染状況に応じて地域の保育園児少数との交流する機会を設けている。感染対策を図り、近隣との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人にて開催されている、月一回の定例会にて、認知症の理解、支援方法についての勉強会に参加し情報を発信している。これから以前の様に学生ボランティア等を受け入れ活かしていければと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回、第二木曜日の午後から、行政、包括、地域民生委員、利用者、ご家族等の出席にて委員会を行っている。その際にいただく意見や指示を更なるサービスの向上へ目指し取り組んでいる。	会議には行政、地域包括支援センター、地域住民代表、入居者、その家族代表が出席し、当日の出勤職員も出席している。ホーム内の報告を充実させることで、積極的な意見をもらうことができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に、電話や直接出向き、書類や利用者の相談、適正について指示を受け、サービスに取り組んでいる。施設内で発生した事故事例等も直ぐに報告している。	行政にはホームの人員体制や運営面について相談をして、アドバイスや意見をもらい業務につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、身体拘束の勉強会を開き意識を高めている。また、同法人で身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、全事業所での取り組みを行っている。新人職員には入社時に研修を行っている。	年2回の研修を法人内で定期的に資料に沿って行っている。新人職員にはスピーチロックになるケアの注意など促している。外に行く希望があれば本人に合せた対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等に参加し、意識を高めている。加えて、同法人で行われる定例会で日頃のケアが虐待に繋がっていないか検討し防止に努めている。同法人で虐待防止委員会を定期的に開催し、全事業所でも防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は以前権利擁護に関する研修に参加し、その制度を理解している。現在、後見人制度を利用になられている利用者がいないが、今後相談があれば制度が活用できるように支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項の締結に関しては、ご家族の納得がいくまで説明を行い、理解・納得が出来た後に締結を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で、外部やご家族から意見をいただく時間を設け、そのような意見に対して随時対応し運営に反映させている。面会の際は、相談等出来る時間を設け、利用者のご家族がそれぞれ安心して生活できるように支援している。	個別の要望にも目を向けて対応している。意見を取り入れ、調理の職員体制を見直し、手作り料理を提供することにつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているリーダー会、管理者会等で、代表者は職員から直接意見や管理者に上がってきた意見、提案を聞くことが出来、運営に反映させている。希望により、個人面談を行う事により意見を聞く事も出来る。	管理者は職員と日頃からのコミュニケーションの充実を図っている。必要に応じて、可能な限り個別に話しを聴くことにより、運営に反映するように対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同法人内の介護職等の人員不足により、経営が困難になってきている。既存介護職員も含め、向上心を持って働ける環境作りについて今後考え、離職率を下げていく事が課題と言える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前より研修の開催、参加が出来るようになった。また職員は休日を利用し、資格取得の研修や勉強会に積極的に参加し、代表者も制度の利用を促進し後押ししていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染時期は出来なかったが、数時間の見学希望者の受け入れを行った。また、グループホーム連絡協議会等で同業者との勉強会、ネットワーク作りを行う事ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活に少しでも慣れる事が出来るように声掛けを行いコミュニケーションの場が持てる様に心掛けている。また、他の利用者とのコミュニケーションのパイプ役になり、孤立しない環境作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や訪問時は可能であればゆっくりご家族と話が出来るように配慮している。またご家族の不安、要望に耳を傾けながら職員の気付き等、意見交換を行うことで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報を医療、サービス事業所、ご家族から提供していただき、また、ご家族の不安、心配事を聞いたうえで、必要な支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が持つ能力を最大限に引き出せるように、理念であるゆつくりをテーマを基本とし、共に共感し、信頼し、励まし合い、支え合える関係作りを築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人とご家族との関係を理解するように努め、施設生活の中で家族に関わっていただける場合は連絡し共に本人を支援できるようにしている。通院、外出、外泊も感染症の心配がない時は出来る範囲で行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の時期が長く、中々関係継続支援が難しい事もあったが、馴染みの美容室への外出や、友人、親戚等の面会等出来るように支援している。また、訪問内容は毎月来ているので利用者との馴染みの関係になっている。	入居時に情報収集で家族関係を知るように努め、家族や友人の支援を受けることができる。入居者の希望や家族の要望で自宅に帰宅することもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に色々な活動の予定を立て、可能な限り全員参加を目標に行っている。(利用者が共に出来るレクリエーションや園芸、誕生日会、ドライブ等) また、洗濯物たたみ等の家事もできる方に行っていただき、共に支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くにお住いの方への声掛けや、経過の見守りを行い、相談があれば支援に繋がるように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に1人ずつ担当者を設け、本人の希望、意向の把握に努めている。声掛け、コミュニケーションの場より、情報収集し、話し合いを行い利用者の理解を深めるように努めている。	入居者ごとの担当職員が「ピアノ便り」のコメントを記述している。また、居室のレイアウトの意向をふまえて飾りつけに取り組み、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能なら本人へ、またご家族や友人が訪問した時に、今までの生活歴や、暮らしぶり等の情報を収集し以前の暮らしぶりに近い生活が出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の利用者が過ごされた様子や、日に二回行っているバイタル測定の記録を残し、その他気付き等を記入したノート等を使用し、申し送り、朝礼で職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思を伺い、会話が難しい場合でも日頃の行動の観察や記録から意思をくみ取るように努めている。ご家族には面会時や電話で意向を確認し、介護スタッフのほか、連携する医療機関医師や看護スタッフから意見をもらい、介護計画に反映している。	医師や看護師、介護職それぞれの立場からの情報を計画作成と実践に反映させて取り組んでいる。記録様式を工夫し書きやすくしているが、本人に合わせた記録に課題がみられる。	個々の入居者の生活課題や目標に着目した記録を行い、より良い気付きに繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に特記事項の項目があり、そこに記入している。記録、気づきを職員間で共有し、見守りの強化など実践するほか、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医以外の通院はご家族に確認し、家族が遠方等で付き添いが難しい場合は職員が付き添いを行っている。また訪問歯科治療や、本人の身体状況により、訪問マッサージを依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校の生徒の訪問やボランティア活動はコロナの影響で出来なかったが、毎日の食事に欠かせない、米、肉、魚、味噌醤油等の配達で安心安全に生活することができる。また週に2回の弁当の配達でも暮らしを支えられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医をかかりつけ医とし、馴染みの関係を持ち継続して医療を受けられるように支援している。月三回の訪問診療と、24時間体制の医療連携にて適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医の協力により、本人の状態に応じて連携を図り、適切な医療が受けられている。必要に応じて眼科など他科受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日二回のバイタルチェックを行い、その他健康観察で必要であれば状態の変化等を協力医療へ報告している。緊急時は24時間体制で医療と連絡が出来るようにしている。加えて訪問看護が受けられる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、ご家族、病院関係者と密に連絡を取り、協力医との連携で情報交換や相談に努めている。また、情報提供書を病院側に提供し、スムーズな対応が出来るようにしている。加えて入退院時等の準備、受け入れ支援も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重要事項説明書の「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」の部分をご家族に説明している。医療と連携し、重度化した場合はムンテラを計画し、ご家族の意向や希望を聞き支援を行っている。	本人・家族の希望と健康状態に応じた情報の連携を図り対応している。ホームの設備や体制について説明し、より良い生活の在り方を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に職員はどのような対応、行動を取るべきかを医療側からの指示にて行える様にしている。また、緊急時の連絡先等全員が把握できるように明確にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練時には、可能であれば実際の一次避難場所まで避難をしている。実際利用者と共に避難する事でかかった時間や、職員それぞれの動きにも確認できるようにしている。夜間水害を想定した訓練は職員だけで行った。	近隣にあるデイサービス、サービス付き高齢者住宅と協力している。実際に避難場所までの移動時間を計り、入居者や職員の動きなど確認している。備蓄品も備え定期的な管理確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人内で接遇研修を職員全員受け、その際に一人ひとりの人格の尊重に関して学ぶ事が出来た。トイレ等のプライバシー空間に関しては、使用中はカーテンで仕切る等の配慮を行っている。排泄の声掛けは利用者の近くで出来るだけ小声で行っている。	一人ひとりの入居者とのコミュニケーションを大切にしており、人格を尊重して思いを引き出すように努めている。職員の個人理念にも「一人ひとり」との言葉が多く使われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、利用者が意見や希望を言える環境作りを行っている。否定せず共感の姿勢を大切にすることで自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、また体調面、精神面を考慮し、希望に添って支援できるようにしている。集団での生活で毎日の活動予定もあるので、それを楽しみに出来る様声掛けも行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前に、翌日の衣類の準備を一緒に行ったり、入浴後の美容クリームや保湿クリームで身だしなみが出来るように支援している。おしゃれの日や、訪問理容、外出時の服装等、職員が支援できるところは自己決定を優先させ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、行事食等を計画するが、楽しみになるように前もって利用者に伝える。可能な限りリクエストにも応えている。最近では重度の利用者が増え共に片付けをする事が少なくなったが、出来る方にはお願いし、一緒に楽しみながら行っている。	入居者の希望も取り入れ、手作りでおいしいという声が聴かれた。希望により、アユやウナギを提供することもある。可能な方には片づけを依頼し、一緒に行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や協力医の指示にて制限や特食を提供している。水分・食事量に関しては毎食記録を行い、必要であれば医療に報告し指示を受けている。食事が困難であったり、栄養状態が思わしくない方へは医療指示にて経腸栄養剤の摂取を行い体調の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。声掛けを行い、行っていただき、出来ない部分を職員が援助している。必要に応じて義歯洗浄剤を使用し洗浄・消毒をしている。通常の口腔ケアが出来ない全介助の利用者には口腔ケアシートを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄状態、方法、パターンを理解し、その人に合った排泄方法、時間帯で支援している。布下着、またはリハビリパンツを出来るだけ使用していただき、声掛けを行い、排泄の失敗が少なくなるように努めている。	排泄の状況を記録し、声かけのタイミングを図りながら誘導している。自立された方もいるが、排泄後に確認をするように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日各個人の排泄チェックを行っている。食事は、毎朝ヨーグルトを提供し、キッチンスタッフはひじきやワカメ等の海藻類、野菜等、腸に良い物を使った料理を提供している。一人ひとりの状況に応じ、医療から指示された量の下剤を便秘時には使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタルチェックや体調、本人希望等を確認し入浴を行っている。週2回以上の入浴を行い健康観察等も兼ねて支援している。男性の方は髭剃りを、女性の方は入浴後のクリーム塗布をし楽しく会話ができる時間を設けている。	本人の様子を見ながら、声掛けし誘導している。希望に応じて音楽やラジオを流したり雰囲気づくりをすることもある。浴槽への出入りには手すりが設置されて転倒への配慮がしてある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況によって、居室の照明の強弱や室温等の配慮に努めている。眠れない時には、寄り添い話を傾聴し安心して眠れるよう支援している。また昼夜逆転には注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は処方箋にて確認し、名前、日付を職員2名でダブルチェックし服薬管理を行っている。薬の変更や、急な医療からの指示によって変化があった場合は申し送りノート、業務日誌に記載し、漏れが無いよう気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や手伝い、中庭の植物への水まき等、意欲をもって出来る事に関しては一緒に行うようにしている。役割を持ってもらう事で感謝される事への喜びや張り合いに繋がっている。毎月の行事予定に伴い楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症に関して懸念される部分はあるが、ご家族や知人と外食、外出されたり、外泊される方もいるので協力しながら出来るように支援している。また、施設では利用者の希望を把握し、散歩やドライブ、花見等の外出支援を行っている。	外出に関しては家族の支援により、帰宅をすることができたり、知人の支援で外食もすることができている。入居者の要望により、ドライブや散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染拡大の為、買い物支援は出来なかった。利用者で希望のある方は、個人の財布で希望の所持金を持てるようにご家族と話し、いつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者以外は、施設の電話にて希望に応じ連絡が出来るようにしている。また、毎年暑中お見舞い、年賀状をご家族や希望する方に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、限られた空間を広く安全に使用していただく為に不必要物の撤去、整理整頓を行っている。中庭からは愛宕山が見えそれも利用者の楽しみの一つとなっている。季節感を取り入れるためにその季節に沿った壁画や写真を作成し、安心して生活できるように支援している。	共用空間は間取りも広く、天井が一部吹き抜けになっていることにより、明るく開放感が感じられる。壁にはたくさんの写真がきれいに並べて貼られている。季節を感じさせる作品も飾られている中で、入居者はゆったりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、一人掛けの椅子と大きめのテーブル、数名座れるソファ等を置いており、自由に過ごす事の出来る空間を完備している。中庭にも自由に出入りでき草木や花を観賞できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコンとベットが設置されており、他の空間は馴染みの家具や、好みの物、家族の写真等を自由に置かれ、利用者が安心して居心地よく生活できるように工夫している。	居室には家族の写真や施設で撮影した写真、造花なども飾られている。担当職員との交流により、整理や飾り付けをしている様子が伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、いたる所に手摺が設置されており移動や移乗等が安全に、自立できるように工夫設計されている。また、歩行器や、車イスでも安全に移動出来る様にスペースの確保も行っている。		